

後期始業式 式辞の内容です

1 意識の連続が無意識を生む

8月28日の全校集会で、「挨拶は自分づくり」という話をしましたが、気持ちのいい挨拶ができる人が本当に多くなり、とても感心をしています。

自分から挨拶ができる人は、どうやってできるようになってきたのでしょうか。

まず「挨拶をする」ことを自分の目標とし、初めは「自分から挨拶するぞ」と意識して挨拶をします。中には勇気を出して声を出した人もいます。その「意識してやる」ことを続けていると、だんだんと、意識をしていなくても無意識のうちに挨拶ができるようになってきます。自然に挨拶ができる自分になっているのです。「意識の連続が無意識生む」のです。

「自分を高める」や「学校の伝統をつくる」ことも同じです。後期の6カ月間、3年生の皆さんは卒業式まで5カ月間の学校生活です。「私が願う私」になるための第一歩は意識してやることを、ぜひ参考にしてください。

2 心ある言葉

「心ある言葉」それは、相手の気持ちや立場が分かり、自分の考えや決意を、きちんと、ていねいに相手に伝える言葉です。相手を受け止め、受け入れながら、自分の思いを上手に表現していく言葉です。「心ある言葉」は、人とのあたたかい関係を作り、言った自分も、相手もあたたかくします。

もし今までに、「無理」「だるい」「うざい」「きもい」など、相手との会話を即座に絶ってしまうような、相手を傷つける心ない言葉を使っていたとするならば、改めなければいけません。そんな言葉を使って、物事や対人関係を済ませてしまうような人になってはいけません。

人権感覚にあふれた学校づくりに向けて、後期に次のことを行いたいと考えています。

- ①自分や仲間のよさに目を向ける活動をする
- ②仲間との接し方について学ぶ機会を設ける
- ③講師の方を招き、生徒みんなでいじめや仲間との接し方について考える機会を設ける
- ④先生たちも勉強をする
- ⑤いじめ調査を定期的に行い、みなさんの声を聞く

辛いことがあったら相談できる先生であり、解決に向けてすぐに取り組むことは今までと同じです。生徒全員が笑顔で過ごせるよう、一緒に考え行動していきましょう。

平成30年10月11日

各務原市立中央中学校長

鈴木英巳